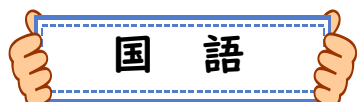




令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果

令和4年4月19日(火)に3年生対象として「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は、「国語」「数学」「理科」「生徒質問紙」が行われ、その結果(個票)を返却しました。それに伴い、本校の様子を分析しましたので、お知らせします。



国語

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

【良かったところ】

・「書くこと」の分野では、全国平均を大きく上回りました。こうした結果が得られたのは、文章構成を意識して「少年の主張」を書く指導を行ったことや、日頃から自分の考えを文章にまとめる活動を繰り返してきたためだと考えられます。今後は、多様な情報(絵やグラフ、写真など)を基に、自分の意見や考えを文章にまとめる練習にも取り組むことで、さらに力を伸ばしていきたいと思えます。

【課題と改善点】

・「話すこと・聞くこと」の分野では、全国平均よりもやや低い結果となりました。今後、目的意識を持って取り組める話し合い活動の体験機会を増やすことで、話し方や聞き方の工夫を身に付けられるよう支援していきます。また、読書指導とも関連づけ、自分が読んだ本を紹介する活動などにも継続して取り組むことで、「話す・聞く」活動を通して興味・関心を広げられるよう工夫をしていきたいと思えます。

・「読むこと」の分野では、全国平均よりも低い結果となりました。場面の展開や心情の変化を捉える問題に課題が見られたため、文章の構成や展開に着目した読解指導により一層力を入れていきたいと思えます。また、国語辞典やタブレットを積極的に活用することで、文脈に沿った語句の意味を捉える活動も継続していきたいと思えます。



数学

本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。


【良かったところ】

・「数と式」や「図形」の知識・技能を問う問題について全国平均よりも良い数値でした。これはまとめプリントを用いて基本的な知識や技能を整理したり、生徒一人一人が知識や技能を習得するために練習問題に粘り強く取り組んだりしたことがつながったと考えられます。


【課題と改善点】

・思考・判断・表現を問う問題や「関数」「データの活用」が全国平均よりもやや低いという実態がありました。デジタル教科書や電子黒板を用いて関数や図形の変化の様子を視覚的に捉えさせたり、一人一台端末を使って様々な表現方法に触れさせたりすることでイメージしにくい関数や図形を理解したり、表現力を養っていったりしていきたいと思えます。

(裏面に続きます)



理科



本校は、全国平均正答率よりやや低い結果となっています。

【良かったところ】

各項目の無回答率は、ほぼ全ての設問で全国平均よりも低くなっています。観察・実験から得られる感動が理科への関心を高めていると考えられます。また、授業中の話し合い活動で自分の意見を伝えてきた経験が、問題への積極的な回答につながっていると考えられます。

【課題と改善点】

領域別では、「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」の分野が全国平均よりやや低いという実態がありました。

今後は、学習内容の基本が身につくように、プリント学習への取り組みの工夫や、タブレットを活用したeラーニングへの取り組みも進めていきたいと思えます。また、タブレットを活用し、学習の振り返りを行うことによって、理解出来るようになったことと今後の課題を確認しながら学習を進めていきます。

課題に対して、観察や実験で得られた結果から適切な考察を導く力を付けられるようにレポート指導も丁寧に行っていきます。



生徒質問紙



【読書に関して】

・「学校の授業以外に1日どれくらいの時間読書をしますか」「読書は好きですか」の項目では、全国に比べて高くなっています。学校でも朝読書の時間を設けていますが、それ以外にも読書の習慣があり、良い傾向にあると思えます。心を落ち着けられる時間を大切に、たくさんの良い作品と出会ってほしいと思えます。

【地域とのかかわりに関して】

・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目では全国に比べて高い数値が出ています。withコロナの生活様式に徐々に移行する中、地域の各行事が関係者の工夫のもとに再開となったことに加え、子どもたちが地域の行事に関心をもち、心待ちにしていたことの裏付けとなる結果であると感じました。

【メディアとのつきあい方に関して】

・「普段から1日当たりどれくらいの時間ゲームをしますか」の項目では、2時間以上の回答が全国平均で50.3%であり、日本の中学生の半数以上が1日の生活の中で2時間以上ゲーム等の画面を見ているという結果になりました。なお、本校ではそれをさらに7%上回っている現状が浮き彫りとなりました。

・「スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の項目では、「きちんと守っている」が全国平均に比べて低くなっていることが気になります。

・以上の2つの項目から、1日2時間以上ゲームやメディアに触れているが、機器の使用や視聴に関して、家庭での約束事がきちんと守られていない傾向にあるようです。これから部活動時間が短くなり、家で過ごす時間が長くなります。学校でも継続して指導しますが、この結果をきっかけに、生活のリズム等を見直したり、家庭での約束事を再確認したり、家庭で話し合う機会を作ると良いかもしれません。

【自己肯定感、自己有用感に関して】

・「自分には良いところがあると思えますか」「やると決めたことは、やり遂げていますか」「難しいことでも挑戦していますか」「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていますか」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目では、全国に比べて低くなっています。

・以上から、自分のやっている取り組みに自信を持っている生徒の割合が全国平均に比べて少ないようです。漠然と大きな目標を設定するだけでなく、その目標をゴールに見据えて、階段を上るようにスモールステップで小さな目標をクリアし、達成感を繰り返し味わうことで自信につながると思えます。また、学級や部活動などの集団で活動する場面では、例え失敗しても挑戦したこと自体を賞賛し合えるような温かい集団作りを一人一人が心がけることで、失敗を恐れずに挑戦していく、たくましい姿を見られるようになっていくと思えます。子どもたちのより良い将来のために、家庭と学校の両面から挑戦する生徒の背中を押し、支えていけたらと考えています。今後も引き続きご協力をよろしく願います。